

全国植樹祭に関するアンケートの結果について

1 調査目的

令和8年5月17日（日）に開催する「第76回全国植樹祭えひめ2026」では、森林・林業に対する理解の促進や、豊かな森林を次の世代に引き継ぐことなどを開催理念としており、大会の認知度や森林等への意識を調査することにより、施策の成果を測るため。

2 調査方法

インターネットを利用したアンケート調査

3 調査期間

令和7年12月15日（月）～22日（月）

4 回答者数

400人（18～79歳の県内在住者）

5 概要

【愛媛県で開催する「第76回全国植樹祭」の認知度】

- ・全国植樹祭を2026年に愛媛県で開催することについては、「知っている：22.5%」、「なんとなく知っている：26.3%」、「知らなかった：51.3%」となっており、半数程度が認知しているとの結果であった。
- ・「知っている」・「なんとなく知っている」きっかけとなった媒体については、回答が多い順に、「テレビ（ニュース、特集番組）：71.3%」が最も高く、「インターネット、SNS：26.7%」、「新聞：11.8%」、「イベント（PRブース、応援イベント等）：8.7%」、「屋外広告（ポスター、のぼり、PR電車、PR車両、サイネージ）：7.7%」、「口コミ：7.7%」、「ラジオ：6.2%」との結果であった。
- ・参加したことがある全国植樹祭関連事業については、回答が多い順に、「おうちde植樹祭えひめ（PRブース）を訪問した：4.0%」、「明日の森林へ贈る愛レターでメッセージを書いた：3.3%」、「みんなde植樹祭えひめ（応援事業）に参加した：2.8%」、「実行委員会のSNSをフォローしている：2.0%」、「協賛した：1.5%」、「一般参加者の公募に応募した：1.3%」との結果であった。

【森林や木材、林業についての意識】

- ・知っている森林の機能については、回答が多い順に「二酸化炭素の吸収（地球温暖化防止）：75%」、「土砂災害の防止：70.3%」、「酸素の供給：69.0%」、「水源の涵養（河川の水を保つ）：60.5%」、「生物の生息地の提供：59.5%」、「木材などの資源供給：59.3%」、「レクリエーション・癒しの場：34.8%」との結果であった。

- 普段から森林や木材に触れ合っていることについて、回答が多い順に、「森林浴でリフレッシュしている：23.0%」、「木製品を積極的に使っている：17.3%」、「木を育てている：12.5%」、「自分で木工やウッドクラフトをしている：5.0%」との結果であった。
- 全国植樹祭の開催に向け、森林や林業、木製品などに対する意識の変化については、「以前より大切にしたいと思うようになった：23.8%」、「大切にしたいという思いに変化はない：71.3%」、「大切にしたいとは思わない：5.0%」との結果であった。